

製品名: FoxL2 (リン酸化 Ser263) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04691**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	FOXL2
別名	FOXL2; Forkhead box protein L2
遺伝子 ID	668.0
SwissProt ID	P58012
免疫原	抗血清は、ヒト FOXL2 の Ser263 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 229-278

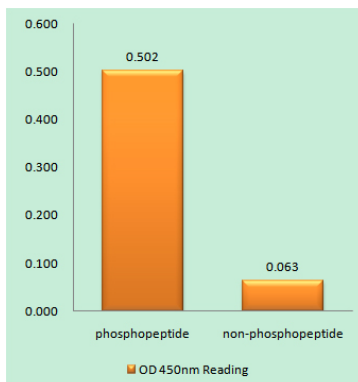
背景

この遺伝子はフォークヘッド型転写因子をコードしています。このタンパク質はフォークヘッド型 DNA 結合ドメインを有し、卵巣の

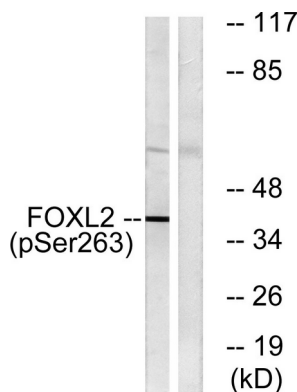
発達と機能に關与している可能性があります。ポリアラニン反復領域の拡大およびこの遺伝子のその他の変異は、眼瞼裂狭窄症候群および早発卵巣不全の原因となります³。[RefSeq 提供、2016年7月]疾患: FOXL2の欠陥は、眼瞼裂狭窄、眼瞼下垂、および内眼角逆位症候群 (BPES) [MIM:110100]の原因となります。眼瞼裂狭窄症候群としても知られています。これは常染色体優性遺伝疾患であり、眼瞼異形成、小眼瞼裂、眼瞼下垂、および下眼瞼から内側および上方に走る皮膚のひだを特徴とします。I型BPSE (BPES1)では、眼瞼異常は女性不妊症と関連しています。罹患女性は、原発性無月経または早発卵巣不全 (POF) により卵巣機能不全を呈する。II型BPES (BPES2)では、罹患した患者は眼瞼の異常のみを呈する。ポリアラニンドメインをコードする領域には変異のホットスポットがあり、ORFの全変異の30%がポリアラニンの伸展につながり、主にII型BPESにつながる。疾患: FOXL2の欠陥は早発卵巣不全³ (POF3) [MIM:608996]の原因である。早発卵巣不全 (POF) は卵巣発育の欠陥であり、低エストロゲン症、原発性または続発性無月経、血清ゴナドトロピン値の上昇、または早期閉経を特徴とする。POFは、40歳未満での卵巣機能の停止として定義されます。機能: 転写調節因子と考えられます。類似性: 1つのフォークヘッドDNA結合ドメインを含みます。組織特異性: 発達中のまぶたでの発現に加えて、発達中の性腺の体細胞で非常に初期に転写され (性別が決定される前)、その発現は成人卵巣の卵胞細胞で持続します。

研究分野

画像データ



FOXL2 (リン酸化 Ser263) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Na₃VO₄ 0.3 mM 40°処理した K562 細胞ライセートの FOXL2 (リン酸化 Ser263) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。